

この間まで「チビ」だの「老いばれ」だのとのしり合っていた2人が握手している。いまにも戦争を始めそうだった険悪さは見られない。変われば変わるものだ▼何をしでかさか分からないトランプ氏と、若き暴君と見られてきた金正恩氏。

この2人によって歴史的な米朝首脳会談が実現した。とこのものが不思議である▼このまま朝鮮戦争の終結という偉業を達成するかもしれない。歴代の指導者が成し得なかったことを、この2人が…。政治学者の姜尚中さんも複雑だったらしい▼「歴史の狡知」としか言いようがない、と週刊誌に書いていた。同感の半面、けがの功名とも思う。たとえば悪いけれど、

子どもの口げんかは立場が対等であるほど派手だから▼北朝鮮が何より望んできたのが米国との対等な立場。遠慮のないトランプ流は意外に好都合だったのかもかもしれない。もっとも肝心なのは成果。だが合意文書は曖昧で解釈に困る▼特に解決が急がれる拉致問題

### 越山若水

2018.6.13

である。トランプ氏は提起したというものの、金氏がどう受け答えしたのか分からない。もどかしさが募るばかりだ▼非核化に向けて具体的な道筋を付けたのか、それもはっきりしない。残念ながら、成果が目に見えるようになるのはまだ先らしい。となると、また心配のタネが出てくる。両首脳が心変わりしないか、と。歴史の狡知は計り知れない。